



# 消防団だより

第20号

発行  
富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地  
TEL 0545-55-2852  
FAX 0545-53-4633

## 祝 富士市消防団ポンプ車操法

# 祝 全国大会出場



### 第22回全国消防操法大会の日程

日時：平成22年11月11日(木) 大会リハーサル  
12日(金) 操法大会  
場所：愛知県蒲郡市(蒲郡競艇場駐車場)

### 第1方面隊

指揮者	第1分団	団員	豊島	大輔
1番員	第1分団	団員	鈴木	邦治
2番員	第1分団	団員	林	直弥
3番員	第1分団	団員	鈴木	崇史
4番員	第1分団	団員	渡辺	高志
補助員	第1分団	団員	山田	俊彦

## 第32回静岡県消防操法大会 ポンプ車操法の部

# ★優勝★



第三十二回静岡県消防操法大会ポンプ車操法、小型ポンプ操法で操法両部門優勝の快挙を達成しました。私達第一方面隊第一分団ポンプ車操法部門は念願の「全国大会出場権」を得ました。

大会当日、雨も上がり自分達の訓練の成果が十分発揮出来るかと確信し、操法に挑みました。蒸し暑いエコパ会場の中、選手全員極度の緊張もなく活気溢れる顔をしていました。操法も大きなミスもなく、タイムも後半まで、一線二線共に上位をキープしていたが、県支部十チーム激戦、成績発表まで長かったです。二部門とも富士市優勝に、共に訓練した両部門選手が喜び合い、応援の関係者が「おめでとう」と涙ながらに祝福、そして、また訓練？との声もありましたが・・・

選手一人一人想いの強さもそうですが、団長をはじめ、役員、指導員、また、公設訓練の際、水利照明機材を準備して頂いた各方面隊の皆様、そして家族の協力、支援があったからだと思います。十一月十二日蒲郡で開催される「全国大会」に向け、熱い男達の訓練が始動します。

### 第一分団の念願

第一分団 豊島大輔



小型ポンプ操法県大会を終えて  
第二十二分団 団員 勝亦宏樹

私達第六方面隊は、富士市訓練大会優勝を目指し要員が自主的にチームを結成し、大会の約二年前から本格的に練習を開始しました。

当初はなかなか呼吸が合わず、伸び悩んだ時期もありましたが、指導員の方々の熱心なご指導の下、徐々にタイムを縮めることが出来ました。

目標であった富士市訓練大会優勝を果たし、支部大会に向けての練習の中では、要員に富士市代表としての自覚が生まれ「絶対に勝つ」という気持ちの中、自然に練習の精度も高まっていきま

した。支部大会優勝を果たし迎えた県大会では、一番目の操法というプレッシャーのかかる場面でしたが、連日の猛練習のお陰で自信を持って行うことが出来ました。

結果、富士市消防団の代表として、県大会優勝という最高のかたちで終わることが出来たこと、又、富士市消防団を印象付けることが出来たことを誇りに思います。

最後に、長い間で指導頂いた指導員の方々、連日の練習を支えてくれた方々、応援して下さった方々に改めて感謝致します。ありがとうございました。

第32回静岡県消防操法大会 ★優勝★  
小型ポンプ操法の部

第6方面隊

指揮者	第22分団	団員	勝亦宏樹
1番員	第22分団	団員	齋木広美
2番員	第22分団	団員	内藤陽一
3番員	第22分団	団員	山川英之
補助員	第22分団	団員	増田圭佑



第一方面隊祝勝会

第一方面隊長 青柳唯一

第一方面隊ポンプ車操法選手の皆様、県大会優勝おめでとうございました。そしてご苦勞様でした。方面隊長として心より祝福とお礼を申しあげます。

この優勝は第一方面隊はもとより、

富士市消防団の後世に残る事になるでしょう。この優勝は選手だけでは果たせなかったと思います。公設での練習で自分の腕時計をはずして一本一本を計りながら、早いとか遅いとか一喜一憂していた大きな体の山本団長や副団長の姿が目につきます。大型指導員も、小型指導員も、礼式指導員も、部門を乗り越え、選手にご指導くださり心よりお礼を申し上げます。応援隊の各方面隊の皆様にも照明設備や水槽の水はりが苦勞様でした。一度も水が無くなったことなど無かった事に感謝申し上げます。多くの消防団員の支えがあったから優勝できたのだと思います。例えば平成二十年年度富士市訓練大会で前方面隊長近藤敏男様のもとで優勝されました。あれからわが第一方面隊ポンプ車操法の快進撃が始まったのです。

もしかしたら近藤敏夫前方面隊長は勝利の女神様かもしれない？そのま

ま後を引きついで私は、答礼者として練習の時から真剣に選手の申告を受け止め、新米の方面隊長が方面隊長とは何かを考えさせてくれたのも選手でした。また、第一方面隊各分団長はお互いを助け合い、酸いも甘いも解りつつ訓練に大会にと黒子役に徹し、こ

こで選手、団員を引っ張った事はすばらしい事だと思います。特に選手を多く出された第一分団遠藤分団長ご苦勞様でした。何の部門であれ消防訓練を経験したものは夢の甲子園である全国大会を目指していると思います。

これからが正念場です。富士市消防団が夢の全国大会に出られるんです。目指すは全国制覇です。第一方面隊がここまでこられた事は、皆様方のご協力と励ましのおかげと感謝しております。言葉に表す事が下手かもしれませんが、改めてありがとうございました。



消防団訓練礼式並び  
消防操法訓練大会を終えて  
第六方面隊長 村松茂美

平成二十年十月、富士市訓練大会において第六方面隊が小型ポンプ操法と訓練礼式の部で優勝し、二十一年六月の富士支部消防団員査閲大会出場権を獲得し、富士市代表で出場致しました。

支部大会においても、小型・礼式と二部門で制覇して、第六方面隊結成以来初の快挙となりました。

さて、訓練礼式におきましては二十年六月より厚原スポーツ公園、丘小、天間小、鷹中と、グラウンド利用委員の皆様にも強力を頂き、夜間照明の下約一年間週二回訓練をしてまいりました。訓練中には、頭髮の制限、整列の順番の変更など、数々の無理なお願ひ、きつい言葉を受け入れて下さった選手の皆様には感謝しております。

小型ポンプ操法においては、支部・県大会出場のおり、富士市公設市場で

の訓練において、全消防団員の水利及び照明の準備、そして交通整理と多大な応援協力をして頂き深く感謝申し上げます。

小型ポンプ操法選手は第二十二分団より選出され、二年数ヶ月にも及ぶ訓練を厚原工業用水場において「県大会で優勝するぞ」を合言葉に、自主的に訓練をしてきたと後で聞きました。県消防操法大会においても優勝し、有言実行されたことには驚き感激致しました。又、成績発表の時、富士市消防団団旗の旗手であるにもかかわらず、後方に並ぶ大型・小型選手と一緒にあって歓声を上げ喜び合ってしまったことがいまだに思い出されます。

団員家族には、大変な迷惑及び寂しい思いをさせてしまいました。家族の応援があったからこそ選手達は安心して練習に取り組む優勝を勝ち取ったのではないのでしょうか。

最後になりましたが、この大会を通して、富士市消防団の団結力と信頼関係がより一層強くなったと思います。「富士市消防団バンザイ！」





年頭に寄せて

富士市消防団長 山本信英

消防団員の皆様には、日頃より地域の安心・安全、市民の生命・身体・財産を守る為に多大なご尽力を頂き、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年平成二十一年の富士市消防団の活動を振り返ってみますと、七月に行われた静岡県消防操法大会に於いて

小型ポンプ操法の部 (第六方面隊 第二十二分団出場)

の二部門共に優勝という完全制覇を達成し、本市消防団有史以来の偉業を成し遂げた素晴らしい年でありました。

本年十一月、愛知県蒲郡市で行われます全国消防操法大会に静岡県代表として出場いたします。このことは、富士市消防団史のみならず、静岡県消防協会史にも記され、後世に残る栄誉であります。団長として皆様と共にこの喜びを分かちあえたことは、大変感激の極みであります。しかし乍ら県大会や全国大会で結果を残すことが最終目的ではありません。それらの大会に備えて、団員一丸となって励んだ厳しい訓練から得られた操法技術力や一致団結力を一朝有事の際や、これからの消防団活動の実践に於いて最大限生かしていくことにあります。

幸いにも、鈴木市長様初め、行政関係各位のご理解とご支援を頂き、強力な後盾となつて頂けることは、大変有難く心強い限りであります。引き続き団員の皆様には、多忙な生活の中で消



チェコの義勇消防団(日本の消防団と同類)と常備消防の調査研修と消防オリピックの視察をいたしました。

防団活動に貴重な時間を割いて頂くことになりませんが、尚一層の御協力をお願い致します。

また、団長個人の活動としてしましては、七月、海外消防事情調査団の一員として、フランス、イタリ

りの要として無報酬で活動しているチェコ義勇消防隊。それぞれの条件下で頑張っている各国の消防事情を見聞し、あらためて日本の消防組織の素晴らしさも認識いたしました。消防オリピックは、チェコのオストラバ市で開催され、日本からは日本少年消防クラブが初参加致しました。

十二月には、消防大学校(東京都三鷹市)消防団長科に入校し、一日から九日迄、他市町の消防団長二〇名の方々と学びました。現在、消防団の抱えている問題点や地域特性を生かし乍ら、消防力の強化・充実・発展をはかる為には何をなすべきなのか等々について、行政と共働で着実に進めるべく、深く掘り下げた議論がなされました。

たよれるまちのサポーター! 消防団員募集

自分のまちを 災害から 守るために



平成二十一年六月七日、富士支部査閲大会が富士宮市山宮ソフトボール場にて行われました。消防団へ入団して初めて出場する支部大会。出場順一番目。緊張してる中「集まれ!」指揮者の号令の第一声。全身に力が入り、グランドに二十人の列員のまとまった足音が響く。その後「小隊の編成」「小隊訓練」へと続く。

富士支部査閲大会(訓練礼式) 第二十二分団 団員 勝亦郁之



消防団だよりをご覧の皆さん、こんにちは。富士市カラーガード隊「フジレッド・フェアリー」です。



私たちがカラーガード隊は、富士市消防音楽隊とともに富士まつりや火災予防PR等のパレード、消防まつりや消防出初式で華麗なドリル演技を披露することで市民の皆さんへの消防PR活動を行っています。

富士市消防本部管理課 電話 〇五四五・五五・二八五二



「出初式に思うこと」

第十六分団 団員 小林 智

私は消防団に入団して二度目の出初式となりました。昨年は先輩団員から、「出初式は寒いから防寒対策はしっかりしておけよ!!」と言われたのですが、忠告を安易に受け止めた為寒くてブルブル、震えながら式典に望み、大変な思いをしました。

今年は同じ失敗をしてはいけなと、靴下は二枚、長袖のシャツ、厚手のももひき、カイロをベタベタと貼り、万全を期したので、寒いながらも緊張した式典となりました。

『備えあれば憂い無し』

近頃頻繁に地震が発生しています。政府の地震調査委員会では、静岡県中西部を震源とするマグニチュード8.0程度の東海地震が今後三十年以内に八七%の確率で発生すると予測しています。

大地震が発生した場合の被害で最大なもの火災によるものだそうです。まずは火事を出さない為に、各家庭で消火器を備える等、事前の対策を心掛けていきたいものです。



一斉放水開始で空高く何本もの弧を描いた水柱に浮び上がった虹が、不安を取り除き、清々しい気分になさせてくれました。

出初式

第十一分団 団員 岡本敦宏

私が消防団に入団してから十回目、ラッパ隊に入隊してから四回目の出初式を迎えました。天候も晴天に恵まれ、早朝から多くの来賓、市民の皆様に見守られながら開式となりました。まずラッパ隊の「気をつけ」の号令、ラッパを吹く時には、寒さでマウスピースと唇が冷たいため、音を外さないように注意しながら吹奏しました。その後式典では市長による部隊観閲、表彰、訓示と続き、部隊観閲では、凛とした表情が印象的でした。

その後、場所を青葉通りに移して分列行進が行われました。式典時に比べ、多数の市民と来賓の皆様方の視線やカメラを向けられる中、速足行進ラッパを吹奏しました。方面隊毎の隊列に続き消防車両も後に続きました。分列行進が終了すると、消防音楽隊とカラーガード隊によるドリル演奏、市の査閲大会で優勝した方面隊による訓練礼式、小型ポンプ・ポンプ車の操作が披露されました。特に操作の部では、小型ポンプ・ポンプ車共に静岡県大会において優勝されているだけあって素晴らしいかったです。

出初式の締めくくりとして、県の防災ヘリからの放水の後、各分団のポンプ車と梯子車による一斉放水が行われ、綺麗に放物線が描かれました。

出初式が終わって、夜警も後一ヶ月余り続きますが、火災や災害の少ない一年になりますよう祈りたいと思います。



市長賞

「航空隊による空中放水」山田 徹哉



議長賞

「華麗なリズムで」山本 拓史



消防長賞

「消防救助演技」萩原 旦宏



消防団長賞

「整備完了」赤池 正裕



防火協会賞

「高らかに」斉藤 勝則

平成22年 富士市消防出初式  
写真コンテスト  
優秀作品



「木島区投げ松明」  
第二十九分団 部長 仲摩桂一

我が分団では消防活動の一環として、分団員総出で対応している「木島投げ松明(なげたいまつ)」での警備活動をご紹介します。



八月十六日、木島区(旧富士川町)において毎年恒例の投げ松明川供養が、富士川河川敷で勇壮かつ幻想的に行われました。

本行事は木柱に取り付けた灯籠に火をつける投げ松明、手筒花火、打ち上げ花火が行われ、いずれも火を取り扱います。特に投げ松明では参加者が火のついた松明を勢いよく廻して木柱先端に取り付けられている灯籠目掛け投げ入れますが、投げ損じた場合会場外の下草に火が燃え移り延焼することがあります。また、会場に隣接している仕掛け花火に引火の危険が及ばぬ様、ジェットシューター(背負い式手動ポンプ)を装備した団員を会場各所に配置し対応を行います。

警備活動としては、灯籠から燃え落ちる火の粉が周囲の参加者に危険が及ばぬ様に注意を促す事と、手筒花火で興奮した観客やカメラマンが安全ロープ内に立ち入らぬ様に監視を行い、会場に来られた観客・投げ松明参加者の安全対策と火災予防に努めています。

吉永地区会場型防災訓練  
第八分団 部長 本多弘明

平成二十一年八月三〇日、吉永地区において会場型防災訓練が実施されました。訓練開始前の話題は、十一日早朝の地震の事ばかりでした。自分達が、急な地震に対処できなかった事や予測される東海地震はもっと大きいと言われていることへの不安などでした。そんな中訓練が開始され、参加者達は地震の記憶がまだ新しい事もあってか訓練には真剣に取り組んでいる様子でした。



様々な訓練が行われる中、第三方面隊は、第八分団を主に地震発生後の火災を想定し、避難路確保のためのウォーターカーテンを設置。これは、高さ五メートル程の噴水を幕状に作り、火災現場と隔てるものです。その際を避難する子供達は、ちよつとしたアトラクション気分になっていました。が、バケツリレーに参加すると、大人達と一緒に声掛け合っている協力する姿が見られるなど、参加者全員の防災意識の高さに私自身が驚かされました。

地域の皆には、この訓練での経験で得たものと、防災に対する意識を忘れずにいてもらえよう願うと共に、消防団員として今後の活動に励んでいきたいと思ひます。

私が想う消防団  
第二分団 家族 熱川泰希

父は、消防団に入団して今年で二十一年を迎えたと言っていました。その時に、僕はなぜ消防団に入ったのかを聞いて見ました。返ってきた答えは、自分の住んでいる地域の事や、人の事を知っている様で意外と知らないのと言う単純なものでした。僕はてっきり、人の為につくすボランティア精神で入団したと思つたのですが、意外な答えに少し拍子抜けしましたが、父の消防団活動を見てみると、都合が付く時は消防団活動に積極的に参加しています。ただのボランティア精神だけでは、二十一年もの長い年月、消防団活動を続けては行けるはずありません。そこには、義務や責任が必ず有ると思ふのですが、父は「物事何か行なえば責任はいつも付いて来るものだ。それより、人との出会い、ふれ合いを大事にする事が出来て、消防団に入団した



事が人生のプラスになっている。」と言っていました。もちろん、父が消防団活動する上で、母の協力が無ければ出来ないのは当然の事です。その様な事を全てひっくり返りて考えてみると、

消防団はただ火事を消すのではなく、色々な人々と地域を繋いでくつ付ける接着剤の様な物に見えて来ました。

僕もゆくゆくはこの地元で生活する事となります。その時が来たなら僕も、その接着剤になれたらいいなと思ひます。

少年から未来へ  
第十二分団 団員 秋山洋一郎

僕が消防団に入ったのは四年前でした。自宅に近所の人達が来て「お前も消防団に入れよ」と誘ってくれました。その人達は僕が小学校低学年の頃によく遊んだ人達や先輩達です。昔、その人達と探検した時の事を思い出します。夏の森の中でクワガタやカブトムシを採ったり、地元の中野二丁目の沢を下ったり、汗をいっぱいかいて遊びました。

そして時は経ち、それぞれの道を歩んでいきました。僕もその仲間達も、いまでは立派な父親です。

先日行われたポンプ操法で、僕はその仲間達と共に選手に選ばれました。僕は三番員でした。夏の暑い中での練習は昔の事を思い出させてくれます。

消防の行事には、消防祭り・夜警・出初式などの行事があります。時には大



変な事もあります。でも僕は、あの夏の探検の続きをしているような気持ちになるのです。

新入団員教育を終えて  
第二十分団 団員 鈴木清教

四月二十六日、公設地方卸売市場で新入団員教育が行われました。二十分団では、定例会に二度参加しておりましたが、今回初めての公式行事ということで、少し不安混じりの参加となりました。

当日は消防団長の挨拶と訓示を聞き、その後、消防団員の責任と心構え、消防団の概要・活動などについて講義を受けました。特に消防団の組織と役割については、事細かに決められていて、消防団員は特別職の地方公務員だと知り、自分の立場や責任の重さを痛感しました。

その後、部隊訓練では、屋外で訓練儀式、小型ポンプ・ポンプ車の操法について指導員の御指導を戴きました。

訓練儀式では、隊形や動作について御指導を戴きました。実際に動作を行いました。が、なかなかうまく行かず、今後の繰り返し練習が必要だと思ひました。小型ポンプ・ポンプ車の操法においては、各部名称と取り扱い方について丁寧に御指導を戴きました。実際にホースの延ばし方・巻き方・運び方について体験させて戴き、大変勉強になりました。

さらに、訓練大会の模範演技を見学させて戴きました。正確で素早い動きに驚きました。今後、私も指導員の方々に少しでも近付けられるように努力していきたいと思ひました。

今回学んだ事は、今後の消防団の活動に生かしていきたいです。その為には、分団における定例会に積極的に参加して、いろんな技術を習得していく事が必要だと思ひました。



ソフトボール大会の思い出  
第七分団 部長 渡辺 透

前日までの大雨で試合が出来るか心配しましたが、試合会場は水溜りひとつなくホコリもたたくなくて、むしろ絶好のコンディションでした。

ソフトボールには多少の自身がありました。練習日が毎回雨降りでも一度も練習できず、ボールを握るのも二年ぶり、まさにぶっつけ本番であった。

第一試合は先攻で始まり、一番バッターがいきなりホームラン！三塁ベースを回って喜びのハイタッチ、がしかし、ホームベースを踏んだ瞬間に主審が「バッターランナーアウト」の宣告。ダブルベースのルールを忘れ違うホームベースを踏んでしまったのだ。愕然となったが、ただ笑うしかない。それでもなんとか四点先取。

守備に着きサードゴロを一塁に悪送球。二年ぶりではこんなもの。下手なりに一生懸命やっているがプレートの続出。試合中のヤジも、お互いに罵声を言い合っても気にせず笑って済ませる事ができる、これも楽しみの一つである。

交流試合とはいえ、逆転されると生まれつきの闘争本能がむき出しになり、大声で怒鳴って周りから「冷静になれ」と冷やかされて我に振り返省をする。試合以外でも、甘酒やおしるこ等の出店があれば他分団との交流があったかとも思います。

監督を受け、ケガもなく三位に入賞する事ができ楽しい思い出になりました。



「消防団ソフトボール大会」  
第二十七分団 団員 中原芳治

合併により初めて参加したソフトボール大会である。

少ない団員を何とか集めての参加であったが、別々の年代の団員が一つの球を追いかけて戦った。結果は惜しくも一回戦負けであったが、皆それぞれ力を出して楽しい一日であった。普段見慣れないジャージを着てバットを振る姿はなかなかおもしろいものである。

最初は軽い気持ちでいたが、いざ試合が始まるとそれなりに夢中になってしまった。自分も何十年ぶりのソフトボールで、昔の野球少年の頃を思い出しながら懐かしく感じられた。忙しいなかにもかかわらず多くの団員が参加してくれてありがたい気持ちになった。なかなか普段の消防の集まりにも来れない人達も今日は気軽な気持ちで参加し話をすることもできた。

このような行事を通じて消防団の親睦をはかれたことが一番良かったことであり、今後も団員相互の心の交流がスポーツを通じて判り合えることは素晴らしい事だと思つた。

今日一日、団員の皆様お疲れ様でした。

富士市まとい会三十年の歩み  
富士市まとい会 会長 渡井公平

富士市まとい会は、昭和五十四年十月二十九日、元富士市消防団長の望月虎一様が初代会長となり、旧鷹岡町時代の消防団長の井出不二男様が相談役となつて結成されました。

このまとい会は、会員相互の親睦を図るとともに、消防思想の普及につとめ、もつて地域社会に貢献することを目的として結成され、会員の構成は、消防団員は分団長以上、消防職員は消防司令以上の階級にあつた元消防団員で、三十名の会員で発足しました。結成当初からの会員では、元会長の杉山安廣様をはじめ、現在六名の会員がご健在で活躍されております。

昭和三十二年四月に、当時の吉原市(現富士市)に常備の消防署が開設されるまでは、消防団が、全市内の消防・水防等の全ての災害出動に当たっており、防火を主として、昼夜を問わず、あらゆる災害に対処してまいりました。現在のまとい会百三十名の会員の中には、常備消防の発足前からの消防団員経験者が大勢おります。

当時の消火活動には、市内全域に互つて一斉の出動になっていて、年間、何十回と出動して、消火、防災活動に当たっていました。生業を持った中で消防団活動、今では、なつかしく思い出されます。

まとい会の年間行事としては、消防恒例の出初式典へ、まとい会の制服である法被を着用して、大勢の会員が列席、出初式の風物詩となっています。この出初式におきましては、毎年あつたかい甘酒を前日から準備し、来場のお客様や大勢の市民の皆様には振舞い、大変喜ばれています。

平成十二年度からは、富士市災害ボランティア連絡会へ加盟して、総合防

災訓練や災害ボランティア講習会、市民福祉まつりへの参加、災害支援本部開設訓練等多くの行事に参加し、積極的にボランティア活動を行つています。



毎年実施される富士市総合防災訓練での、各地区で行われる会場型訓練におきましては、開催地区、地元のみとい会員を中心に、災害発生時に対応できるように訓練を重ねております。

また、消防団活動の基本となる訓練大会には、富士市大会の優勝隊への力ツプの贈呈をはじめ、富士支部大会、静岡県大会等、会員一同で激励、応援をして、防火、防災の活動以外にも活躍の場を広げています。

平成二十一年度には、静岡県大会において、富士市消防団は、ポンプ車操法、小型ポンプ操法共に立派な成績で、二種目完全優勝を果たし、ポンプ車操法は、平成二十二年に開催される全国大会出場の際に輝き、今後の活躍が期待されます。私たちがまとい会としても、喜び、誇りとするものであ

ります。

十一月には消防まつりへ協賛して、会員や各分団から、沢山の品物を出品していただき、盛大な献出しバザーを行い、毎年市民の皆様には喜ばれております。このバザーでの売上金は、全額、市の福祉基金へ寄付させていただきます。今年は市長から感謝状をいただきました。

この外にも、毎年二月に、富士本町、吉原本町通りを会場に行われる火災予防PRパレードにも、大勢のまとい会員が、赤い法被を着て参加し、防火防災活動の一翼を担っております。このパレードは、カラーガード隊を先頭に、消防音楽隊、幼稚園児による鼓笛隊、消防団、消防署、まとい会、防火協会と消防ポンプ車を連ねての非常に盛大なパレードであります。

以上の様に、正月の出初式に始まり、十一月の消防まつりまでの一年間の活動をまとめて、富士市まとい会三十年の歩みとさせていただけました。

今後も、消防のOBとして、消防を応援し、まとい会として各種の消防防災行事に参加し、少しでも地域社会に貢献できるよう頑張っていきたいと思つていきます。

(注) 纏(まとい)の由来

町火消しが、組の目印(シンボル)として用いたのが纏です。纏はもともと群雄割拠の戦国時代に、敵味方の目印として用いた率(まとい)あるいは馬印と称していました。江戸時代に入り、太平の世が続くと、武家の率は使われなくなり、これに代わって火消しが火災現場で用いる標具となりました。町火消しが誕生して間もなくの享保五年大岡越前守は、町火消しにも纏を持たせ士気の高揚を図りました。



分団家族慰安旅行

第十四分団 団員 笠井賢二

家族三人で参加のデイズニールン  
ドバス旅行。七月十九日、今日は第十  
四分団で行く家族慰安旅行です。  
今まで、仕事などで家族で出掛ける  
事が少なかったため、今回の旅行は自  
分も家族もとても楽しみにしていまし  
た。

普段、団員同士は顔を合わせていて  
も、家族同士が顔を合わすことは少な  
いので、旅行先で遊ぶ楽しみとは別に、  
他の団員の家族と一緒に過ごせる楽し  
みもありました。

自分には一才半の娘が一人います。  
入団当時家族慰安旅行があることを聞  
き、将来妻と子供を連れて参加できる  
事が夢でした。今回その事が叶えられ  
てとても良かったです。

デイズニールンでは、子供といろ  
いろなアトラクションに乗る事が出来  
ました。子供と一緒に過ごすのは初め  
てだったので新鮮な感じがしました。  
家族ともコミュニケーションがとれ、  
団員の普段と違った一面を見ることが  
出来てよかったです。

今後の消防活動も積極的に取り組  
み、団員同士楽しく活動して生きたい  
です。



防火ポスター優秀賞受賞者(中学生)

消防まつり  
Fire fighting Festival



防火ポスター優秀賞受賞者(小学生)

消防まつり

第4分団 団員 佐野晶彦

『火災のない明るく快適な「安全都  
市・富士市」を築くために、市民と消  
防が心をふれあい、相互に理解と認識  
を深める』これが「消防まつり」の開  
催趣旨です。



ご来場いただき約2万人の市民に  
喜んでいただき、消防団の活動を理解  
していただくため、団員は時間と努力  
と費用をかけて模擬店を出展します。

我が4分団では例年、大福もちを提  
供させていただいておりますが、前日  
の準備から団員はもちろんその家族も  
あん作りに参加します。実は4分団の  
家族は消防まつりを満喫したことがあ  
りません。当日も早朝から団員とその  
家族で、休み無く大福もちを作り続け、  
一息つくころには他の分団の模擬店も  
終了しています。しかも例年赤字で、  
今年は40人以上の人員費を除いても  
数万円の赤字。市民に理解と認識を深  
めていただくためには努力とお金がか  
かりますね。

しかし、それも活動の一環。市民に  
消防団を理解していただき、防災、防  
火活動にご協力いただければ苦勞も報  
われます。

『楽しかった消防まつり』

第十七分団 永戸健太  
永戸麻裕子

十一月十五日、毎年恒例の消防まつ  
りが行われました。ぼくは何日も前か  
ら、この日をとても楽しみにしていま  
した。十七分団は「焼鳥・ジュース・  
金山寺みそ」を販売しました。当日は  
僕も「いらっしやいませー」と大き  
な声でお手伝いしたので、お客さんが  
大勢来てくれて、お昼前には完売とな  
り、とてもうれしかったです。

もちまきの時は、僕のお父さんがは  
しご車に乗ってもちをまいたので目  
前にたくさん投げられて、いっぱい  
拾いました。とても楽しい一日でした。  
また来年も、たくさんお手伝いして、  
大きくなったら僕もお父さんみたいに  
消防団に入りたいと思いました。

消防まつりでは、ジュースを売った  
り焼鳥をパックにつめたりと、お店  
屋さんになった気分です。とても楽しい  
一日でした。

焼鳥を焼いている時は、けむりと熱  
で『消防のおじさん達もお母さんも大  
変だな』と思いました。でも、お母さ  
んはとても楽しそうでした。大勢の消  
防団のおじさん達を見て『いつも私が  
住んでいる地域を一生懸命守ってくれ  
ているんだな』と感謝の気持ちで  
いっぱいになりました。



これからも、お父さんの言う事をよ  
く聞いているいろいろな事に頑張ろうと思  
いました。

—麻裕子—

「消防まつり」

第二十八分団 分団長 望月幸博

富士市消防団となって初めて参加し  
た今回の消防まつり。昨年、第七方面  
隊として参加し雰囲気は判ったつもり  
でしたが、いざ分団だけの運営とな  
ると不安ばかりが募ります。今回は少  
しでも慣れたものの販売が良いのでは  
と思い、地元夏祭りでの経験者がいる  
「焼き鳥」を選択しました。

さて当日、実際販売が始まると『本  
当に売れるのだろうか?』という心配  
をずっと持ち続けていました。しかし、  
時間が経つにつれお客さんの数が増え  
始め、焼くのが間に合わなくなる程。  
「さっき食べておいしかったから」と  
また買いに来てくれたお客さんもいて  
とてもうれしくなりました。なんと昼  
過ぎには完売となりました。

看板やその他の準備も全団員で分担  
し、アイデアを出し合い一丸となって  
できたことは今後の分団の結束力の強  
化や消防活動にも役立つことと思いま  
す。





新車納車  
第十九分団 団員 田島一寿

平成二十一年十一月二十七日晴天の中、ポンプ車の引渡し式が防災庁舎前で執り行われ、二十年余り共に地域の防災を守り続けたポンプ車に別れを告げ、十九分団に真新しいポンプ車が配備される事となりました。自分は、まだ団員としては二年目と駆け出しで旧車に対して思い入れといってもそんなに有るわけではないのですが、特に諸先輩方は、この引渡し式を考え深い気持ちで見えていたのではないかと思います。

数十年間共に地域の防災、消火活動に何百回、何千回と出勤し、共に走ってきたのだから思い入れもひとしおかと思えます。無事に引き渡し式を終えたポンプ車は、一路皆が待つ詰所へ出発と言いたい所ですが、平日の為、式に出席した

方のみでその日は車庫に直行。団員へのお披露目は後日の点検日までお預けでした。

そして当日、誰よりも先に詰所に到着。シャッターを開けると、中には真新しい赤がとっても似合うポンプ車。思わず「おおー」と声が出ます。ポンプ車のドアを開けると新車独特の匂い「あゝ新車はいいな〜」と思わず声に出てしまいました。新車を堪能しているうちに団員が集まってきたので、数分後にはポンプ車の周りには人だかりが出来ていました。皆、それぞれ運転席に座る人、装備の確認をする人と、まるでテーマパークのアトラクションを待つ人みたいで我が先にと楽しそうに、そして真剣にポンプ車の確認を行っていました。この様子を見ると、皆、納車を心待ちにしていた事を伺える事が出来ます。自分も納車を心待ちにしていた一人です。早く新車になれば、地域の防災活動に貢献したいと思っています。



新分団長  
平成21年4月1日就任



第4分団長

■ 松下 喬房 ■



第22分団長

■ 舘山 一政 ■



第19分団長

■ 望月 一人 ■



第13分団長

■ 吉田 和年 ■



第12分団長

■ 秋山 勲 ■



第8分団長

■ 菊池 奈津男 ■



第31分団長

■ 小池 義徳 ■



第30分団長

■ 小林 幹男 ■



第28分団長

■ 望月 幸博 ■



第27分団長

■ 望月 一也 ■



第25分団長

■ 石川 裕 ■

編集後記

消防団だよりを発行するにあたり、団員皆様又、ご家族の皆様より多数の原稿をお寄せいただき厚くお礼申し上げます。皆様からの寄稿を拝読させていただき、消防団活動に対する切実且熱心な姿勢、家族の皆様への心温まる気持ちが伝わってまいりました。

今号一面に掲載させていただきましたが、今年度は二年に一度開催されます静岡県消防操法大会に富士支部代表として、小型ポンプ操法・ポンプ車操法の二部門に富士市消防団が出場し、共に優勝という歴史的な快挙を成し遂げることができました。これはひとえに、選手をはじめとする富士市消防団員全員とご家族皆様のご理解とご協力があつたからこそと確信しております。

消防団だよりが団員の意識の高揚と団結心が養われることを祈念すると共に、市民の皆様にも消防団活動を少しでも理解して頂き、一人でも多くの消防団員を確保出来るようご協力をいただければと願います。今後も皆様に親しまれる紙面作りに努力して参りますのでご支援、ご協力をお願い申し上げます。

広報紙編集委員長

富士市消防団広報紙編集委員会

委員長

第五方面 隊長 小林秀己

副委員長

第十分団 部長 鈴木貴之

委員

第二十五分団 部長 本多信行

第四分団 部長 前田和徳

第十三分団 部長 千葉和男

第二十六分団 部長 斉藤正道

第二十四分団 班長 渡辺洋史

第三十一分団 班長 佐野幸壽